

NHK が腐って来た？

今から 20 数年前、バブルも収まって金利が急速に低下して来た頃の話である。1993 年 9 月には公定歩合が 2% を切って来た。1991 年 7 月以降、ほぼ半年毎に公定歩合は引き下げられていた。そのたびにニュースになったわけだが、NHK の言う台詞は、最後には必ず「これで金利生活者の生活はまた厳しくなる」と付け加えられていた。小生はあるとき所要があつて、『NHK 放送博物館』を見学に行った。ついでにその横にある受付に行って、「NHK は金利が下がるごとに、金利生活者の生活は厳しくなったと言っているが、夫婦 2 人が生活するのに最低どのぐらいの生活費が必要になると思っ
ていますか？」と尋ねた。受付の女性は 2 人いたが、顔を見合わせて「200 万円ぐらいですか」と答えた。いいところだろう。「ところで、現在定期預金をして 200 万円の金利を得るにはどの程度の元本が必要になりますか？」と小生は意地悪く追及した。「逆算すると 1 億 5,000 万円ぐらいになる。だとするなら、『金利生活者の生活はまた厳しくなる』という表現は果たして的確を射ているといえるのですか？元本を少々切り崩せば済む話じゃないですか。」と詰め寄った。この受付の女性たちは「担当スタッフに伝えておきます。」と言って頭を下げた。小生は今後ニュースの表現には十分に注意するべきことを進言した。以来さすがにこの表現は聞かなくなった。

★ ★ ★ ★ ★

小生の小、中、高時代の同窓生に NHK の職員がいた。彼は実に優秀な人間で、学業は常にトップクラスを維持し、また人望もあった。東大を卒業した後 NHK に就職したわけだが、当時は白黒テレビ時代で、カラーテレビがある家庭は少なかった。その後 20 年ばかりが経って、この友人とある航空会社の社員と数人で飲み会を行ったことがある。さるパーティーの 2 次会の席においてだった。そこで彼は「俺が入社したとき、NHK の初任給は民放より 500 円高かった。それで NHK を選んだんだけど、今では民放に全く適わないよ。」と言っていた。彼は裕福な家庭の出であつたから、給料の多寡は問題ではないだろうが、そこでアバウトな給与を聞いていた航空会社の社員が、「それじゃウチの古参のスケジュールと大差ないよ。」と言い出した。以来小生は NHK の低賃金を憂えている。NHK ともなると、『何とか NHK に出演したい』とか、『何とか NHK からの取材を受けたい』という要望が驚くほど強く、そこには人情や、金銭などが微妙に絡んで来る要素が潜んでいる。実は小生もさる得意先から NHK ニュースで取り上げてもらえないか相談を受けたことがある。さる歌手の慈善公演の折であつた。

★ ★ ★ ★ ★

そしてもう一つ。NHK は多くのスポーツ番組をリアルタイムでオンエアしている。プロ野球、大相撲、プロゴルフ etc、だがこれらはすべて元はといえばショービジネスであつて、アマチュアスポーツとはワケが違う。つまりこれをオンエアすることは

私的な利益誘導に他ならない。NHK ではそういった私的な支援は基本的に禁じられているはずだ。ニュース性があるかないかの判断はもう一つ別にあるとして、実況中継はこれとも異なる。しかもこうしたスポーツは残念ながら賭け事の対象であり、八百長あって当たり前の世界である。勿論表向きは八百長はあらゆるスポーツで禁じられている。しかし時としてこれがニュースになり、八百長はむしろ地下深くで行われていると見たほうが正解のように見える。スポーツの世界でも何年かに1度の割合で八百長問題が浮上する。更にこの勝負にかける賭博が暴力団等の資金源になっているという話を聞いたことがある。特にNHK でオンエアされるものは、全国でリアルタイムで見ることが出来るから、胴元は全国から賭ける人間を集めることが出来るうえ、その直前まで掛け金をインターネット等で受け付け、その結果も全国津々浦々で知ることが出来るから、トラブルも少ないのだという。これをいいことに胴元はNHK で中継されるスポーツを中心に賭博を行っているというのだ。短時間で勝負がつく大相撲が代表格らしい。

★ ★ ★ ★ ★

最近では若いプロゴルフ選手がNHK でたびたび取り上げられることが多い。小生はこれにも疑問を感じている。確かに若い有望な選手が育ってくることはスポーツにとっては好ましいことだろう。しかしこれもプロスポーツの世界であって、その結果がNHK で取り上げられることは、その選手の収入に大きく影響する。なぜなら、我々広告人の世界で、私企業がいわゆるタレント契約する際の一つの基本として、NHK でどれほど取り上げられているかという問題が、一つの基準になることがしばしばだからである。NHK を見ることの出来ないエリアは日本にはない。どんな辺境の地でもNHK を見る事が出来る。つまりこの事実は民放の商業ではカバーできないエリアをもNHK が補完してくれるばかりか、NHK に出る回数が多いスポーツ選手に対する国民からの信頼は篤い。こういう人物が自社の契約タレントであれば、商品との関わりが、それだけ有利に展開できるという魂胆が企業側にはある。このためにNHK によく出演するタレントの契約費が高くなるというわけである。民放ならともかく、公共放送が1個人のいわば“稼ぎ”に加担してもいいものなのだろうか、と考えられるのである。またこうしたスポーツには中継権料という出費が伴うケースも少なくない。ただでさえやりくりの厳しいNHK が、民放に対抗して『視聴率主義』に走り、多大な出費までしてプロ野球の中継をすることに、どれだけの意味があるのだろうか、小生には疑問が残る。それぞれの局には、それぞれの特徴がある。バラエティの得意な局もあれば、経済に精通した局もある。NHK は孤高のNHK を維持してこそ、その存在意義がある。NHK にしか出来ない番組も数多い。ニュース番組もその一つだが、『プロフェッショナル』や『ファミリーヒストリー』『ソングズ』『NHK スペシャル』などは、他局では真似出来ない。他にも自然や旅を題材とした番組など数多い。視聴率主義を捨てて、低視聴率でも他局では制作できないような、もっとインタレスティングな番組に経営資源を

集約すべきだろう。そしてプロ野球等、金を払ってまで中継するような番組は、思い切ってもっと切り捨てるべきであろう。更に申し上げれば、膨大な制作費を費やして制作されている『大河ドラマ』のごときは、饒舌すぎてとても毎回は付き合いきれない番組である。こうした番組もそろそろ「泣いて馬謖(バシヨク)を斬る」覚悟が必要なのである。あれだけ大量の番組宣伝スポットを流しても、視聴率が20%に満たないようでは、もう国民から『NO』を宣告されているに等しい。これを切り捨てて、職員給与の改善を優先させるべきではなかろうか。

★ ★ ★ ★ ★

NHK を見ているとその職員、もしくは制作プロダクションの資質に問題を感じる事例も多く生まれているように思える。ニュースの中でも表現が、標準の日本語から、ややかけ離れている部分や、アナウンサーのアクセントの著しい違い、といった基本的な問題点に違和感を感じることに気づくことも多くなった。しかしこれはまあ、日本語全体が乱れているご時勢でもあり言語は常に変貌しているものではあるからよしとすべきかもしれない。しかし先日ギリシャの経済危機があったとき、早速NHKで、ギリシャの公務員事情の実態を伝える番組があった。番組にはギリシャで公務員を務めて年金暮らしをしている女性が登場して、その生活ぶりが紹介され、受け取っている年金が50万円であると伝えていた。ところがこの番組では、50万円が1ヶ月なのか1年なのか、それとも日本と同様に2ヶ月なのか、肝心な所が抜けている。一体こんなことで、きちっと報道しているといえるのだろうか。日本での年金は偶数月の15日に2か月分が指定された銀行口座に振り込まれる仕組みになっている。この報道で取材担当者は、その事実すら判っていないように思われてならなかった。

★ ★ ★ ★ ★

2015年10月15日午後7時30分、クローズアップ現代の中で、来春から始まる電力会社の選択が、各家庭でも自由化されるというニュースが取り上げられ、ここには数十社が参入することになるとの話があった。ところがこの中で、真っ先に取り上げられたのは『[楽天](#)』の電力供給会社への参入の話であった。どうやって安い電力を入手して、これをどういう営業網で販売し、どういう請求制度にしてゆくかなどが、実に克明に紹介された。これでは楽天の電力料金が極めて安価だと宣伝しているようなものだったのである。東京ガスなども紹介されていたが、それはほんのわずかで、いわばお付き合い程度という感じだったのである。楽天の紹介はかれこれ10分近くも続いたろうか。小生ははっきり言って、これには何か裏があるのではないかと疑った。[オーナー会社はとかく社長の一存で、大きな金を動かすことも不可能ではない](#)。またこの番組はかつて大阪でいわゆるヤラセ報道があったとして、話題を集めた番組である。折から厚労省の公務員が業者から100万円を受け取ってマイナンバー制度にかかわる医療関連のデータ導入に便宜を図ったとして、汚職の容疑で拘束された時期である。

そして事実 NHK 関連会社の職員が、不正に金を流用していたとして、何人かが相次いで告発されたのである。

★ ★ ★ ★ ★

昨今の NHK ではこうした問題も孕んでいるような気がしてならないのである。仮に NHK で 15 分間オンエアされたと仮定すると、この時間帯民放のスポットに換算すれば億単位の金額になる。1,000 万円程度の裏金が動いたとしても全く不思議はない。NHK に登場すればそれ以上のメリットがある。民放では、番組提供のスポンサーに対しては、有料でこうした番組が制作されることはしばしばあるが、これはお互いに私企業なので問題はない。そして NHK においても番組の制作は NHK 職員が行っているわけではなく、いわば官僚と同様にプロダクションに丸投げされている。横浜でのマンションの土台の杭問題と同様に、その下にはいくつもの下請け業者がおり、更に孫受けがあるのはどこの世界も同様である。NHK の番組担当者は出来上がりをチェックし、制作費を管理するだけである。不正の入り込む余地はそこここに点在する。現実 NHK では嘗てそんな不祥事もあった。小生が申し上げたいのは、既に NHK の公共放送としての体質が、根本から揺らぎ始めているという現実であり、これを憂えているのである。

★ ★ ★ ★ ★

さて同年の 10 月 20 日『おはよう日本』の 7 時 50 分ごろ、直径 30m の反射望遠鏡を国立天文台がハワイのマウナケア山に作る話が話題に上がった。アメリカやカナダ、インド、中国など 5 カ国による国際協力により完成を目指している。この山にはもともと天体望遠鏡が多く設置されており、『すばる望遠鏡』もすぐ近くにある。すばるに対してこちらは『Thirty Meter Telescope (TMT)』と呼称されている。『すばる』と比較すると直径は約 3.66 倍、集光力は約 13.4 倍にもなり 707 m²もある。なぜこの話が話題になったかといえ、この集光装置である反射鏡のガラスを、日本の神奈川県にある小さなガラスメーカーが製作したからというのが、その理由らしい。これだけの大きさになると、日光に照らされて温度が上昇して熱膨張が起り、反射面が破損しかねない。ところがこのメーカーは、この難問題を見事にクリアーして、ゼロ膨張ガラスを開発したのである。これによって宇宙の起源にも迫る観測が期待されているのだ。『Thirty Meter Telescope (TMT)』に関しては、『国立天文台 TMT 推進室』が既にホームページを立ち上げて、詳しく解説している。ところがどこを探してもこのガラスを開発したメーカーの社名は出ていないし、NHK でも社名がでて来ることはなかった。なぜこうした努力を重ねた中小メーカーは出ないのだろうか。

ここで小生がどうしても腑に落ちないのが、『楽天』との比較である。楽天は前述のごとく『クローズアップ現代』の中で、電力を安く仕入れる手法が社名入りで、詳しく報道されたのに、この世界的な高技術のガラス素材を開発したメーカーの社名は、ついに明かされなかったのは何故なのだろうか。ニュース番組には、

また特別なルールがあるのだろうか。首を傾げたくなるばかりである。これには裏があるのではと、つい代理店上がりの小生は疑いたくもなるのである。

★ ★ ★ ★ ★

同じ日の正午の天気予報の少し前、視聴者から白い花の写真が送られて来て、これが画面に大きく映し出された。一瞬ショウガの花と思ったが、投稿した視聴者の解説では『ハナミョウガ』なのだという。ハナミョウガの花は白色ではないはずと思ったが、まあ色々であるのかもしれない。しかし番組のコメンテーターは何を思ったのか、「我々が食べるミョウガは、そのままにしておく、この花を咲かせる」と解説した。すると隣のアナウンサーが「〇〇サンに聞くと何でも分かる」というようなオベンチャラを言った。投稿者も含めて、すべてが間違っているように見える。我々が食べるミョウガは、花穂を包んだ肉厚の『苞葉』であり、この食べる部分は間もなく花を出して、花は1日で萎れてしまう。似たものにヤブミョウガという白い花を咲かせるものもあるが(05-02-10)、投稿者が撮影した写真とは、やや花の形が異なる。これはどう見てもショウガの花(05-02-09)なのである。NHKではあれもこれも、デタラメな情報を垂れ流していいのだろうか。既に奥の奥まで腐り始めてしまったのだろうか、そこが気になる。

★ ★ ★ ★ ★

NHKではよく天気予報を流す。だがこの天気予報にはかなりの『人情』が混在している。休日はどちらかという天候が悪い方に傾く。弁当業者や、観光関係の業者から、天候が悪い方へ傾くと、弁当が売れ残った等のクレームが集中するからだという。しかしこれは情報の操作であり、事なかれ主義のNHKの典型である。それに天気予報に関して言えば、NHKの予報告知の一覧が、まず名古屋から沖縄、そして次が札幌から東京、が一画面ずつ表示される。一体これは何の順番なのだろうか。小生はNHKに問い合わせたことがある。すると「天気は西から変わるために西から表示」したのだという。だったら沖縄から名古屋、東京から札幌の2枚で表示すべきだろう。どうもNHKには我々とは異なった哲学があるらしい。

★ ★ ★ ★ ★

天気を表示するマークにも小生は疑問を抱いている。そこで以前気象庁に聞いたことがあった。これは国際的なものではなく日本だけのものらしい。雲や太陽がわけも分からないまま表示されている。時々なのか後なのか、晴れたり曇ったりなのか、よく判らない。なぜこうした基本をしっかりと決めないのか、小生には理解できなかった。そこで、「国際基準を気象庁が中心になって作ったらどうなのですか」と言ったが、そのつもりはないらしい。パソコンやスマホにもわけの判らないアイコンが氾濫している。前回の東京オリンピックのとき、トイレや喫煙所のマークを開発するのに往生したことがあったが、そろそろ各社のアイコンの共有化にも取り組むべきではないだろうか。